

#### 第4回地震・津波災害に強いまちづくり検討委員会 議事概要

日時：平成24年11月20日（火）15：00～17：00

場所：ソラト太田川3F 東海市立市民活動センター大会議室

#### 議事（1）東海市地震・津波災害に強いまちづくりの検討について

- 太田川と信濃川の後ろ側にマウンドとした緑地を長期的に整備できないか。天白川の一帯については、公園整備が長期的に考えられないか。  
津波の越水するところは、弱者の老人施設は高台に移転させたり、場所等については規制するなど、弱者施設は建設できないようにするよう対応を考えていきたい。
- 公園の整備については、市からもアイデアを出してもらいながら、一緒に考えてまいりたい。
- 東海市は、S56年以前の建物が多かった。耐震化が進んだのは、人海作戦で直接各自宅を訪問して、その場で申し込んでいた方もいるし、毎年ダイレクトメールの送付、広報、ホームページでの周知をしている結果である。  
嵩上げは、昨年から300万円に増額して補助を出しているが、個人費用もまだ多い。  
建て直しのときに嵩上げされる方が多かったが、建て替える方が少なくなっている。
- 区画整理を積極的にやっているのので、事業に伴う建て替えが進んだ面もあると思う。
- S30年代に人口が増えたようにその時に建てたので建て替え時期にきており、建て替えがうまく進んだ。建築士、市町村の方が町内会長さんと回っておられる効果がでていていると思う。
- マウンドもそうだし、区画整理も含めて市が前向きに動いていることで相対的に安全性があがっていると思う。
- 都市計画のまちづくりでは名鉄の駅が8つあるので駅を中心としたまちづくりということを進めている。太田川をまちの核として、バスや自転車で来られるようにしている。駅周辺には高齢者が住めるまち、若者は郊外でというまちづくりを進めている。
- 山側は液状化が低いし、津波も来ないので、郊外住宅地の質の良いところは維持し、浸水しそうなところは、商業を中心としていくと、人口減少時代を踏まえ、災害面も配慮したまちづくりができると思う。
- 名和駅周辺の移転については、地域のコミュニティから見た課題がある。そんなに離れた距離で移転させず、できれば駅を中心にした方がよい。液状化危険度の話はでてきていないが、常滑線の西側は液状化が厳しい。インフラが壊れるなどのときに復興が困るので、公共投資は注意が必要である。
- 市域の1/3が工業用地。数万人が勤めている。企業と市間の連携はまちづくり計画にあってもいいと思う。西知多産業道路はさらに南の市町に重要な道路なので、この位置づけは重要である。
- 高潮防波堤の整備が一番重要で、これさえできれば沿岸部の安全性は格段にあがる。高潮防波堤の内側にあるというのがすごくメリットになると思う。
- 東海市は丘陵地を開発しているのので、地すべり災害が起こるところもある。
- ため池はかなりリスクが高いのであえて重要な課題として、長期でなく短期として取り上げていただければと思う。
- 東海市はまちづくりの施策がうまくいくと防災面でもうまくいくということが分かった。

## 議事（２）地震・津波災害に強いまちづくりガイドライン（中間とりまとめ）（素案）

- 策定方法が重要。手引き書になり得るので、なるべく丁寧に作成して欲しい。具体的に参照した資料の名称を書くと参考になると思う。具体的にだれから聞いて、表ができるのかということに記載すると他の地域での検討に有効だと思う。
- 将来をみた分析、将来予測というキーワードを入れて欲しい。現在のマスタープランが災害に対応していないところもあると思う。マスタープランをそのまま踏襲するのではなく抜本的に見直すことも含めて書いていけばと思う。
- このガイドラインの活用方法を考えると、災害に強いまちづくりに関する新しい計画を策定するのも1つの選択肢であるが、既存の計画体系に入れ込むことが重要である。自治体の将来像は、都市計画マスタープランに描くことになっているが、被害想定と復興方針については検討していない自治体が多いためである。仮設住宅で復興住宅に移るといふことがあるが被害想定がないので、仮設住宅の用地の検討もしていない。区域の公共用地があつて、仮設ができるかどうかということも事前復興の一環として検討すべきである。
- 体系的には、将来、都市計画マスタープランに反映するという事は考へている。既存の計画を見直すにも通常時間がかかるので、まず、短期でできる施策、行政としてできる計画を考へて、それからじっくり、将来について検討するという流れで考へている。
- 多様な方が参加した都市計画マスタープランづくりができていなかった。今回の教訓に学ぶということが縦割り組織はやめ、議論することである。多様な参加者と書く必要があると思う。都市、防災ということだけでなく、単位の多様性ということ、国が考へて市町村に投げかけてということになっているので、小さな単位でのまちづくりが欠けている面があると思う。50年先を考へるのに子供の意見を聞かないというのはどうか。将来の担い手の意見を聞くことも触れた方がよい。
- 検討に時間をかけずに素早く短期施策をやるところと、地区スケールでじっくりやるところがある。後者については、じっくりまちづくり活動を支援していく施策として入れる。重要な骨格的なものは短期的な施策として書くなど、メリハリがつけられればよい。
- 山間部と水が長期につかるところは、まだ議論が少ないので来年度は検討して欲しい。